

Wellness & Medical Care

子どもの「食育」を考える

8



育てて感じる 「生きている」食材

皆さんが住んでいる地域には、まだ農地がありますか？都内で比較的多くの農地が残っている世田谷区でも、最近はどんどん減っています。

私は大学の教育研究活動の一環で、子どもを対象とした農業体験活動を行っています。その際、子どもたちに話を聞くと、野菜の名前は知っていても、実物を見るのはスーパーの野菜売り場以外では初めて！という子どもも少なくありません。そういった子どもたちが以前より増えている要因の一つが「身近に「農」がない」ことだと私は考えています。

私自身が小さい頃、いつもの通園、通学路の途中に農地があり、何気なく目がいつ「何が育っているんだろう？」と思ったのを覚えています。そして、日々大きく育っていく野菜の成長を楽しんでいたものです。そうすると、普段、スーパーに並んでいる野菜は「生き物」なんだという思いが、いつのまにか心に芽生えていきました。実は、こんな日常の一時が食育の時間にもなっていて、普段自分が食べてい

る「食べ物」は「生き物」なんだという認識が醸成されているのだと思います。

現在、スーパーに並んでいる野菜たちを見て「生き物」だと認識している人は、大人も含めどのくらいいるでしょうか？多くの人は「生き物」ではなく「売り物」という認識ではないかと思っています。この認識が、実は食品ロスや食べ物を粗末に扱ってしまうということにもつながっているのではないかと私は考えています。

そこで「食べ物」は「生き物」なんだということをあらためて考えてみるきっかけとして、ぜひ親子で野菜を育ててみませんか？最近では農業初心者向けのアドバイザー付き貸農園（市民農園）や農業体験教室が運営されていたり、あるいはご自宅で気軽に楽しめるプランター菜園などもオススメです。身近に「農」のある生活が、親子の楽しい食育の時間となれば幸いです。



東京農業大学農学部
デザイン農学科助教
みづのりようすけ
御手洗洋蔵 先生

2015年4月より東京農業大学農学部バイオセラピー学科助教、
2018年4月より同学部デザイン農学科助教。博士（農学）。

東京農業大学

総合農学の観点からSDGsの課題解決に貢献する国内外のあらゆる教育・研究を展開。地球の豊かな未来に貢献できる人材を育成している。

<https://www.nodai.ac.jp/>

情報誌 **MiS-MO** 3月号 に掲載されています

